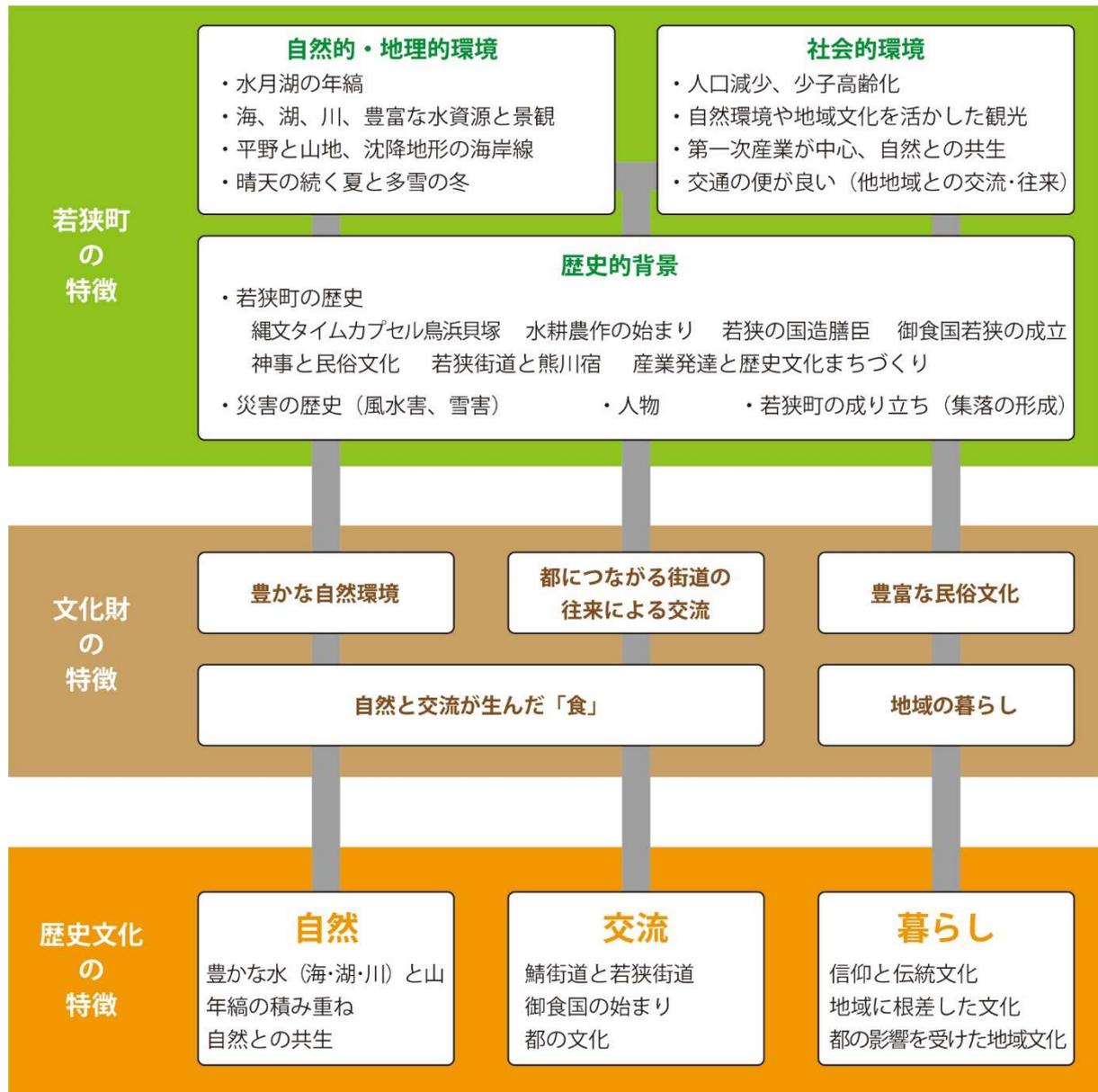


第3章. 若狭町の歴史文化の特徴

これまで整理してきた町の概要と文化財の特徴を整理すると、若狭町の歴史文化の特徴として「自然」「交流」「暮らし」の3つをあげることができます。これらはいずれも、三方五湖水月湖の年縞の積み重なりに象徴されるように、現在まで脈々と受け継がれ、将来にわたって積み重ねられ続けていきます。



図：若狭町の歴史文化の特徴

自然とともにある歴史文化

- ・若狭町の歴史文化は、日本海、三方五湖、北川といった水の恵み、広がる平野、豊かな山と森といった自然に囲まれた安定的な社会のもとに育まれてきました。
- ・名勝三方五湖の周辺にある縄文のタイムカプセルといわれる鳥浜貝塚をはじめとする縄文遺跡群は、自然とともに生きた縄文人の暮らしや風景を今に伝えていきます。静かな湖畔の梅林、湖の伝統漁法の風景は、今も変わらず私たちの暮らしの中にあります。
- ・常神半島は、古くから漁場として開発され、独自の歴史文化を育んできました。現在は多くの民宿が営まれ、海と暮らす生業と風景を今に伝えていきます。
- ・このように縄文時代から現代まで積み重ねられた事象は「人と自然のたゆまぬ共生」という言葉で表すことができます。

交流とともにある歴史文化

- ・若狭地方には、古くから、日本海沿いの東西、若狭湾から畿内に向かう南北の2つの大きな街道があり、これらを通じて、人、モノ、文化が行きかい、若狭町はその要衝の地として存在しています。
- ・御食国若狭の祖といわれる膳臣一族が眠る前方後円墳群は、その形態と豊かな出土品から朝鮮半島や北部九州との関係性がうかがえます。ヤマト政権の影響を受けつつも海を通じた独自の交流が「御食国若狭の始まり」にふさわしい歴史文化をもたらせたといえます。
- ・近世初頭に小浜と京都を結ぶ街道の宿場町となった熊川宿は、物資中継の拠点として発展しましたが、一方で若狭の玄関口として都の文化を受け入れる役割を果たしました。「京へつながる鯖街道」は人とモノの往来の中で、この地域に豊かな歴史文化をもたらせたといえます。

暮らしとともにある歴史文化

- ・若狭町には豊かな伝統文化があります。中世に遡る王の舞などの神事芸能、田の神祭りや戸祝いに見られる民俗行事、廻り地蔵に見られる民間信仰など、これらの伝統文化は、暮らしとともに守られ、今に伝えられています。
- ・若狭町に伝わる伝統文化は、中世以来の形態を色濃く残したものと、街道を通じて都の影響を受けたものが受け継がれています。
- ・若狭町には創建が古代に遡る神仏習合の信仰形態や精神文化を残している社寺があります。
- ・これらの伝統文化は、この地域に暮らす人々の「神仏信仰とともにある民俗文化」ということができます。